



1 学生が水工生をアシスト!



高校生にあいさつする本校の学生達



9月24日(水)、県立水戸工業高等学校で、情報技術科2年生を対象とした「メンタリング：アイデアソン」が実施されました。

これは「いばらきP-TECH」事業で、若い世代からITへの興味関心を高め、自己成長だけでなく未来の課題解決に役立つ実践活動を行うプログラムの一環です。高校生が事前に考えた、それぞれの課題とその解決案をグループ内で発表し、本校の学生9人がグループ協議を進行し生徒に助言するスタイルで実施されました。

災害の多い日本で、ITを防災に活用したいと考える高校生は「グループ協議では、大学生から、課題の整理方法や、IT活用の新たな視点を頂けて良かった」などと嬉しそうに話していました。次代を担う若者が、創造性とその実践力でITをよりよく活用することが期待されています。

2『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞日本経済新聞(2025年9月23日)
27年度に次世代自動運転
日産 AI活用、試作車を公開

●大森鋼刃さん(太田一高卒)

◇要約：日産は27年度にAIを活用した次世代自動運転技術を実用化する。米中が先行する中、日本も安全技術の確立や実証実験を通じて地域交通を維持し、高齢化社会に対応する仕組み作りが急務となっている。
◇感想：日本は、海外に比べて安全を優先し、自動運転技術で遅れを取っている現状である。今後は競争力と安全性の両面で、他国の企業に遅れを取らず、日本の特徴である安全性を世界中に広めて欲しい。

●渡邊正史さん(水戸葵陵高卒)

◇感想：自動運転技術はAIや通信技術の総合力が試される分野だと思う。自動運転時にAI、ビッグデータ、センサー技術、通信技術など多様な分野の連携が欠かせないからだ。幅広い技術理解と応用力が、今後のIT技術者に求められると感じた。

●中村太紀さん(多賀高卒)

◇感想：少し前までは、自動運転という言葉は存在していたが、実現に遠いと考えていました。しかし、急激な技術の進歩により自動運転の実用化が広まっている。自分もそれらを支えられるIT技術者になりたい。

●黒澤麻衣さん(佐和高卒)

◇感想：自動運転システムがAIを活用し、より安全に運転できるようになっていて驚いた。IT技術者を目指す身として、システムを作る上で、プログラミングは勿論、AIも活用できるようになりたいと思った。

●藤村幸平さん(水城高卒)

◇感想：AIはITの中で発展が著しい分野であり注目されている。IT技術者を目指す学生として、AIを活用した役立つシステムを開発し、社会に貢献したいと思う。AIの理解度を上げていきたいと思う。

●佐藤大輝さん(石岡一高卒)

◇感想：安全性をどう担保するかが重要であり、IT技術者にとっては「AIの判断の透明性」や「トラブルの対応」も重要な研究課題となる。倫理・法規制・社会受容性を理解し開発に関わる姿勢が求められていると感じた。

